

2016年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2016年3月14日）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
土谷敏治	D	公共交通を中心とした都市問題	交通を中心とした都市の問題に関する文献の講読を通じて、調査・研究の方法、論文の書き方を学習する。その成果を踏まえて、調査・研究計画の立案、資料の収集、現地調査、調査結果の整理・分析、調査報告の作成の実習を行う。現地調査は、豊橋市、あるいは沼津市を予定している。	火・5
橋詰直道	E	都市に関する文献調査と現地調査	都市や住宅地に関する人文地理学の論文を前後期、複数回レビュー発表することで、地域研究の課題や調査方法を学ぶ。夏休み中には、各自地域調査をし、その調査レポートを9月に提出してもらう。また、後期には関東甲信越地域の中小都市を事例に、ゼミ合宿形式（9月または10月、3泊4日）での地域調査を行い、地理調査の方法や調査結果の集約・分析方法、まとめ方などを学び、調査報告書の作成を行う。4月に、1年間の授業での文献レビュー発表順やレポート提出及び地域調査の日程を決める。前・後期に各1度、都内日帰り巡検も行う。	月・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	大野市の人文地理（農業・商業・朝市・観光・水利用など）	福井県大野市	10月上旬（3泊4日）	大野市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読などを行ない、個人またはグループで調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）の計画を立てる。現地調査後は報告書を作成する。	水・5
櫻井明久	B	地誌的研究	中国山地	10月初旬	受講生の皆さんと相談の上、たとえば中国山地農村地域を例に、地域とその変化について、あるいはある特定テーマに絞って、文献、現地調査を含む地域調査法一般を習得しながら、地誌的研究を試みたい。	月・5
佐藤哲夫	C	那覇市のまちづくり	那覇市	6月末か7月初めを予定	那覇市内のいろいろな地区のまちづくりについて調べる。今までに都市計画に関する一通りの知識（地域計画論など）をすでに勉強しており、とくに景観計画、地区計画など景観行政に興味のある諸君の参加を望む。	水・2
須山 聡	D	奄美大島の地域性	奄美大島	6月下旬（5泊6日）	地域調査の計画立案・現地調査・報告書の作成を実習する。今年度は特定の集落を選び「集落点検」の実施を考えているが、希望によりその他のテーマについての調査も行う。昨年度のテーマは高齢者の居住・庭園景観・ハブと人間・道路整備であった。	水・2
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村	6月（4泊5日）	山間地域の特徴や変容について調べ、何回も書き直して調査報告書をまとめる。主な調査テーマは、地域おこし協力隊、ふるさと納税、スキー場経営、ジオパーク。「村落地理学」を未履修の人は今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
須山 聡	D	離島の地理学入門	奄美群島	旧暦8月15日（9月10日）をはさむ2泊3日	奄美大島の集落で旧暦8月15日に開催される年中行事である「豊年祭」を参与観察し、行事の運営や参加者の行動を記録する。単に行事を見物するのではなく、準備を手伝い、踊りや余興・相撲などの演目に参加する。そうした中で、集落の維持・存続に関する知見を得る。	後期 金・4
平井幸弘	E	琵琶湖に注ぐ安曇川の自然と恵み	滋賀県琵琶湖西岸の安曇川三角州	後期授業期間中に2泊3日または3泊4日	後期授業期間中に2泊3日または3泊4日滋賀県琵琶湖西岸の安曇川三角州地域において、デルタの地形、内湖の再生と利用、ヨシ原の保全、湧水の利用などに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、さらに地形調査、水文調査、植生調査、景観調査などを実施する。（キーワード：三角州、湧水、内湖、ヨシ原など）	後期 火・4
櫻井明久	F	那須地域の農業・農村と田舎町	大田原市周辺	5月末	自然環境の違いを地形図から読み取り、現地での景観観察によって農村の環境条件とその歴史的な発展・変化傾向を考察し、それら農村の特色と地域中心としての田舎町と地方都市の構造変化を考察する。	前期 火・3

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
高木正博	C	河川の水文環境や水害・水利用に関する分野	関心のある研究テーマについて、先行研究となる文献・資料の紹介を義務づける。フィールドワークは、受講者と調査内容について相談して決めるが、甲府盆地の治水、利根川上流域の水資源開発、関東周辺地域の湧水調査などのうちから1つを予定している。	火・4
田中 靖	D	東京の地形とGIS	東京の地形や土地利用などを対象として、班別に調査・研究テーマを決め、文献の精読、複数回の現地調査、GISを用いた空間分析および地図作成、発表、調査報告書の作成という地理学における研究の一連の流れを経験する。現地調査は主に週末を利用して行う予定。	水・3

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の気候と環境	鹿児島県屋久島町	10月24～27日（予定）	前半は、屋久島の広域スケールにおける気候的位置づけおよび島内における気候の地域差をテーマに、気象データ解析を行う。後半は、その上で、島内における気候の地域差を中心に現地調査を行う。	水・4
鈴木秀和	B	浅間山の自然環境と観光	群馬県嬬恋村・長野原町とその周辺	7月上旬～8月上旬（3泊4日）	浅間山周辺の自然環境（水文・気象・地形・地質・植生など）や、それを活用したエコツーリズムによる地域振興策などについて調査を行う予定。授業では、文献を講読し、調査テーマを決め、調査計画を立案する。現地調査後は、データを解析して考察を行い、報告書を作成する。	火・5
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	青森県下北半島東岸の小川原湖および仏沼	夏季休暇初めor後期授業初めの3泊4日	青森県下北半島東岸の小川原湖および仏沼を中心に、湖をめぐる開発や環境問題、水産資源の持続的利用、ラムサール条約登録湿地の保全と活用、海岸林の保全と再生などに関して、地形調査、水文調査、植生調査、景観調査、またしかるべき機関、団体、個人を対象に聞き取り調査や質問票調査を実施する。（キーワード：シジミ漁、塩水侵入、海岸侵食、ラムサール条約ほか）	水・4

*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。希望人数によっては調整することもあります。